

吉津小の「予習のススメ」

宮津市立吉津小学校

吉津小学校では、これまでも、それぞれの学年で出来るところから「予習」を進めてきました。

「予習」は日頃から大切な学習習慣です。ですから、「今、このような時期だから」ということではありませんが、あらためて、ご家庭でも「予習」について意識していただければと思います。小学校での「予習」が「学びに向かう力」を育て、今後、子ども達の力を大きく伸ばす足がかりとなります。

人は、自分が何を知っていて、何を知らないのかを認識しながら学習をします。

例えば、何も見ないで、ドジョウを紙に描いてみましょう。まず、「ニョロニョロとした細長い魚」というイメージからスタートし、「魚だからひれがあるだろうか。」「鱗はあったかな。」「ひげがあったかなあ。」等と描くための情報を探すでしょう。突然「ドジョウを描きましょう。」と言われても、今、準備できる情報は、自分の頭の中のイメージだけですが、そこが大切なベースとなります。

次に、自分のイメージでは足りない曖昧な部分を補うために人に聞いたり、人の描いた絵と比べ、情報の取捨選択をしながら、イメージを本物に近付けていきます。しかし、それでも「ひげはいったい何本だったかな？」等と曖昧なところが残り、「何だかモヤモヤする。調べてみたいなあ。」となるのです。この時点で、調べてみたいという意欲が高まり、調べるポイント(学びのポイント)も焦点化されています。ここで本物のドジョウを見ると、「ああ、こんな姿をしていたんだ。」「へえ、ひげは10本もあるんだ。」と納得しながら学ぶことができます。

このことを、学校での学習に置き換えてみましょう。自分のイメージをもち、自分なりに考えてみるころまでが「予習」、自分なりのイメージをベースに周りの人と話しながら情報を集めたり、本物を見たりして分かるころが「学校での学習」になります。

予習をしていると、当然、分からないことがたくさん出てきますが、まずは「自分なりの考え」をもつことが大切です。自分なりの考えをもつことができれば、学びの視点も焦点化され、自分のめあてや見通しをもった状態で授業に臨むことができます。そして、授業の中で自分なりの考えを「見直す」ことができ、自分なりの考えをより論理的で妥当な概念へと深化させることができます。授業で初めて学習する内容を知るのでは、そこで一から思考をスタートすることになってしまい、意欲と見通しに随分差が出てしまいます。

具体的には、①これから学習するところを教科書を見ながら、自分なりにノートに

まとめてみる。②今まで習ったことを使ってできないか問題をノートにやってみる。③関係のありそうな事柄を自分なりに調べ、ノートに書く。④その上で学びたいポイントをノートに書いておく。等があります。基本的にノートに学習の記録として残しておくことが大切で、各学年で使っている「自主学習ノート」が活用できます。タブレット端末も利用しながら自分なりの予習をすすめていきましょう。

